

「キャリア・コンサルタント養成講座」を開催して

香川センター 志摩 徹

1. はじめに

1991年のバブル崩壊に始まったとされる技術革新の急速な進展や産業構造の転換を余儀なくされたことに伴う労働移動の増加など、労働者を取り巻く雇用環境は大きく変化してきました。このような時代の背景のもと、この激変の時代を労働者が職業人としてしっかりと地に根を生やしていくためには、労働者自身が主体性を持ち、自身の能力や特性に合わせたいわゆる『キャリア形成』を行うことが大変重要になってきました。

しかし、労働者がだれの力も借りずに自己のキャリア形成の方向づけをすることは大変な困難を伴うことになり、そのために個々の労働者のキャリアを支援する仕組みづくりが急務の課題となりました。

そこで、厚生労働省では、平成13年職業能力開発促進法の改正による第7次職業能力開発基本計画（5年計画、本年最終年度）において、労働者を雇用する事業主はそれぞれの労働者の職業・生活設計に即した教育訓練の受講および機会の確保、またより効果的な能力開発が行われるよう支援する（＝キャリア形成支援）ことが求められました。このことによりキャリア形成の支援を担える人材の育成のため、『キャリア・コンサルタント養成講座』が、官民合わせて5年で5万人の養成を目標に平成14年度スタートしました。

独立行政法人雇用・能力開発機構においてもそのうちの5,500人の養成を担当し、平成14年11月に第1

回の養成講座を開講して以来、17年10月始まった第7回講座に至るまで全国都道府県において約4,500名もの方々が修了またはその予定です。

その養成講座も、雇用・能力開発機構としての開催は18年4月開講の第8回養成講座が最終回となります。

2. 香川県における取り組み経過

香川県においては、第1回から第7回養成講座までのすべてを開催し、その修了者数は第7期見込みの方も含み111名にも及びます。そのなかには、県境を越えて遠く徳島県、愛媛県からの熱心な受講生も数名含まれています。

その受講生の職種別内訳は、

企業の人事、労務担当等の方	28	(25.2%)
学校等各種教育機関の方	28	(25.2%)
ハローワーク等行政機関の方	25	(22.5%)
開業社会保険労務士	12	(10.8%)
その他自営を含む個人の方	18	(16.3%)

であり、企業内の人事労務担当者、各種の学校・訓練委託先等教育機関、日常的に職業等相談業務を行う職業安定所など行政機関からの受講がそれぞれ全体の約4分の1、残りの約4分の1が社会保険労務士を含む個人での受講となっています。

受講生の募集は、①企業における人事労務担当 ②教育機関 ③その他 その職務に就こうとする方を対象として行っていますが、以上の結果からみるとその各分野から（業務に必要な相談スキルの習得

ということ) バランスがとれて受講いただいています。

3. 養成講座の実施内容

キャリア・コンサルティング分野の草分け的な著名講師陣による衛星放送を活用したキャリア開発理論・カウンセリング理論また若年者に対するコンサルティング理論などに関する全国一斉の講義編、また各受講会場ごとにおいては演習担当の部外講師(社団法人日本産業カウンセラー協会、NPO法人日本キャリアカウンセリング研究会所属)による傾聴をはじめとするカウンセリングスキルの習得など実践編、能力開発総合アドバイザーによるキャリアシート作成指導など自己理解について・インターネットによる職業能力開発情報の収集および能力開発プログラム作成に関する演習など1日6時限から8時限のカリキュラムで、土曜と日曜日に開催、合計19日間の大変密度の濃い内容で構成されています。

また、四国ブロック担当者の情報では各講座の前にはカリキュラム内容を確認の上、各会場ごとに補助教材として関連する情報提供資料を配付し、受講生の満足度を高めているそうです。

この講座の最終日には、それまでに学習して理解した知識修得の程度を調べる能力評価試験があり、またある期間において実務を経験ののちに課題レポートの提出とその評価により自己の学習成果の把握が明確にできることも特記に値します。

4. 養成講座修了生からの声(原文のまま)

修了生の方々の中には、講座で得られた知識や技法を実際にそれぞれの職務に生かされ、具体的に活躍なさっている方が少なからずいらっしゃいます。その中から、第1期生の小亀さんと第2期生の上城さんより、その活躍ぶりについて投稿いただきましたのでここにご紹介します。

「養成講座を通じての拡がり」

小亀 重喜

四国会場第1回養成講座修了生の小亀(こがめ)と申します。ちょうど3年前の今ごろ、私の勤務先の従業員に対するキャリア形成支援の相談に雇用・能力開発機構香川センターへうかがった折、養成講座のパンフレットを手にとったことが受講のきっかけでした。

秋から翌春にかけての約半年間、毎週土曜日会場である四国ポリテクカレッジへ通い続けたことが懐かしく思い出されます。労務関係の知識に乏しい門外漢の私にとってその講義内容は専門的で少々難解でしたが、逆の意味ではとても新鮮で、特に「企業と個人の関係」を考えるうえで重要な知識やスキルを得ることができました。

講座修了後、学んだことを所属する組織/勤務先での労務・人事施策に生かすべくキャリア開発プランを策定したり、地域社会へのはたらきかけの一環として若年者や子どもたちを対象とした異色?の絵本や小冊子を刊行、また、セミナー・講演等による啓発活動など甚だ微力ではございますが身の丈にあった活動を続けてまいりました(図1をご参照ください)。



図1 刊行された絵本・小冊子

さておき、講座修了から今までの間、何よりも感謝していることは“ネットワークの拡がり”に尽きます。同期生の皆さんはもちろん受講期や地

域を越え「志」を同じくする者同士が連絡を取り合い、今もなお活発に研鑽に励んでおられる様子が日々伝わってきます。

香川県内の講座修了生も現在実施されてる第7期までいれると100名を超えたとお聞きしていますが、今後ますます私たち修了生が果たすべきミッションはますます重要になると思います。

皆さん、それぞれのフィールドで頑張らしましょう。

「わたしのキャリア・コンサルタント活動」

ライフキャリアカフェ実行委員会 上城 昌輝
雇用・能力開発機構のキャリア・コンサルタント講座を修了して2年ほどになる。春から夏にかけての講座の受講や同期の皆さんのことなどが、少し懐かしく思い出される。

キャリア・コンサルタント講座を受講中に考えたことで、自分にとって一番の大きなことは「臨床的なところで働いてみたい」ということであった。

「臨床」＝「ベッド・サイド」といえば大きな感じはするが、実際にキャリア・カウンセリングを行うということは臨床的なことでかなり勇気があることのように思えたのである。

昨年は、産業カウンセラーの講座を受講した。臨床的な場面でキャリア・カウンセリングを行うには、「聴くこと」を中心にしたカウンセリング能力がどうしても必要のように思えたからである。現在は、「アットワークカフェ」という名称で若年者中心の就業支援事業に携わっている。実施主体としてライフキャリアカフェ実行委員会という任意団体を立ち上げ、香川県からNPO協働事業としてご支援をいただいている。アットワークカフェのオープンは、平成17年8月1日からでこれを書いている10月までの約2ヵ月間に週4日の営業、平均すると1日約2名延べ人数で80名ほどの相談を受けている。

常勤はわたしだけなので来所される方の人数はこれくらいで限界に近い。

カウンセリング・相談の内容も、ほとんど話を



図2 アットワークカフェにて（筆者）

聴くだけのこともあればVPI職業興味検査を行ったり、クライアントと一緒に面接のロープレをやったり、また職務経歴書を作ったりなどもしている。行動主義的なことや論理療法的なことなどを取り入れもしながら、相談は1回当たり2～3時間程度で行っている。

カウンセリングのセオリーでは1時間までという原則があるが、キャリア・カウンセリングの場合は臨機応変に時間を使う必要性が高いように思う。

これまでの2ヵ月ほどの間に5名の方が就職や職業訓練につくことになり、そんなときは自分のことのように嬉しくて両手を上げて“バンザイ”をすることもあった。

今後は、在職中の方を含めたキャリア・カウンセリング、産業カウンセリングや社会保険労務士の資格を生かして労働紛争の仲裁や調停などの活動もやっていきたいと考えている。

キャリアコン受講者の皆さん、ぜひ一度「アットワークカフェ」に“お茶”しに来てください。お待ちしております。

また、養成講座は先に触れましたとおり多くの講師陣により支えられています。

部外講師の立場で何度も本講座の演習をご担当いただいております「社団法人日本産業カウンセラー協会」香川県事務所長の藤岡秀夫さまより、受講生また修了生の皆さんへのお励ましのメッセージを預かりましたのでここにご紹介します。

受講生の皆さんへ感謝をこめて

「心に寄り添う」

藤岡 秀夫

さまざまなペットブームが続いているが、なかでも犬は定番となっているようである。その理由をあげるとすれば、何よりも寄り添ってくれる心地よさにあるようだ。

人は無意識に、寄り添う相手をどこかで求めている。キャリアの演習の中でもカウンセリングの演習は、技法もしかることながら心の内的世界と深くかかわることになる。いうなれば寄り添うところにあるといえよう。

私はカウンセリング演習を幾度か担当させていただいたが、わずか2日間という限られた時間の中で、受講生が内的に変化していくのを垣間見させていただいた。それは、気づかないほど小さな変化かもしれないが、静かに広がる波紋となって人生に意味を与えていくように思います。

時代のターニングポイントに立ち会うことになった受講生の皆さんは、キャリア・コンサルタントとしてクライアントの人生と心に寄り添ってほしい。

そして何よりも、自分自身の心に寄り添っていただきたい。

内なる声を傾聴することから、キャリア形成は始まると。

今回の本誌への投稿に当たり、大変お忙しいなか寄稿ご協力をいただきました3名の方々に対し、この紙面を借りまして厚くお礼申し上げます。

5. 最後に

養成講座の実施内容でも述べましたが、雇用・能力開発機構において育成された能力開発総合アドバイザーとして、講座の運営と実施に深く携われたことに大きな満足感とまた喜びを感じています。講座を担当した他の会場におけるアドバイザーたちもきっと同じように感じていることと思います。

それは、講座初日のアイスブレイクのための「ク

ラスセッション」担当が受講生との大切な初めての「出逢い」となります。これから大変な長期にわたる講座、いったい何が始まるのか、またほかにどんな受講生が参加しているのかなど、不安な受講生の緊張をほどいていく大切な講座のスタート、少しの時間のうちに自己紹介、そして他己紹介と進んでいくとその笑いのなかにその緊張感はまたたく間にふっ飛んでいくのがよくわかります。ここで講座初日はすべてのカリキュラムは終わり、受講生はそれぞれ別れのあいさつを交わして元気に帰路につき、次回の講座の日を迎えることとなります。

また、講習会場では19日間のすべての日、開催施設では管理者も含む多くの職員が会場の運営や受講生のお世話をさせていただいています。会場内にはおもてなしの気持ちを込めてセルフサービスですが、コーヒー等の湯茶コーナーを設けていることも受講生から大変好評を受けてきました。

このような温かみのある受講環境のなか、講座は衛星放送による全国一斉の臨場感のある著名な講師陣の講義、また現地の部外講師による演習、能力開発総合アドバイザーによる演習と続きますが、最初はとても長く感じていた講座も、終わってみれば短く感じた受講生は異口同音に言います。講師を囲んでの食事会もまた楽しい思い出となっています。

平成18年、いよいよ本養成講座も終了となりますが、意気揚々と巣立っていった多くの修了生がそれぞれの立場において相談者のために黒衣になって活躍していただくことを願うばかりです。多くの修了期を超えたみなさんが、実践した情報を交換したりさらに自己研鑽する場をつくったり、またそのネットワーク化ができるよう事務局として汗をかきたいものです。



図3 第5回養成講座キャリア・コンサルタント